

## 日本版穴位効能作成の 穴位効能案と方法案

### A Proposition for Creating a List of Standard Therapeutic Actions of Acupoints for Japanese

渡邊 大祐<sup>a,b,c</sup>

Daisuke WATANABE<sup>a,b,c</sup>

a 沖縄統合医療学院, 沖縄, 〒 901-2132 浦添市伊祖 4-1-19

b 筑波技術大学保健科学部鍼灸学専攻

c 天津中医薬大学針灸標準化研究所

a Okinawa College of Integrative Medicine, 4-1-19, Iso, Urasoe-city, Okinawa, 901-2132, Japan

b Course of Acupuncture and Moxibustion, Department of Health, Faculty of Health Sciences, Tsukuba University of Technology

c Acupuncture Standards Institute, Tianjin University of Traditional Chinese Medicine

## 要旨

「健脾・宣肺」などで表記される穴位効能は、各穴位のもつ治療作用の総括であり、弁証論治との親和性も高い。しかし、穴位効能の統一見解は日本国内だけでなく中国においてもいまだ存在しない。日本版穴位効能作成のため、以下の研究と考察を行った。

穴位効能と穴性の定義：「穴性」は比較的新しく作られた中医学用語であり、定義は明確に定められていない。『針灸推拿学辞典』によれば穴性は中薬の薬性の意義に相当することから、穴位性能を指すと考えられる。中薬効能は薬性を総括して得られた表記であるため、穴性も穴位効能を構成する要素の1つと捉えるべきである。

穴位効能案：[目的] 中国の医学界で認知されている普遍的な穴位の効能を調査し、日本版穴位効能案の1つとして日本版穴位効能作成に資する。[対象] 上下肢の重要穴 91 穴。[方法] 穴位効能表記のある中国現代著作を対象に穴位効能表記の集計を行い、各穴位の常用効能を明らかにする。[結果] 対象 91 穴の常用効能（穴位効能案）を得た。

穴性標準作成の方法案：「中医医籍」を基礎、「研究データ」を根拠に、「専門家のコンセンサス」を参考とし、総合的に穴位効能を考えるのが理想的だが、現時点ではいくつかの問題が存在するため、実現可能な方法を模索する必要がある。

キーワード：穴位効能，穴性，日本版

## Abstract

Therapeutic actions of acupoints, such as “Facilitating Lung” and “Invigorating Spleen”, represent a summary of their treatment effects, and are highly relevant to dialectic diagnosis and treatment in traditional Chinese medicine (TCM). However, consensus on the acupoint actions has not been reached in Japan, and not even in China. This study investigated and discussed the issues and methods related to establishing a list of standard therapeutic actions of acupoints for Japanese. The term, “acupoint characteristics”, is relatively new in TCM and is yet to be clearly defined. According to “Zhen-jiu-tui-na-ci-dian”, the characteristics of acupoints correspond to the pharmaceutical characteristics of Chinese herbal medicine (CHM). Thus, the term is considered to refer to the acupoint’s therapeutic ability. Given that the actions of a CHM are described based on the summary of its characteristics, the acupoint characteristics should also be considered as a constituent of acupoint actions. With the aim to disclose the standard actions of acupoints, an investigation was conducted on the therapeutic acupoint actions generally accepted by the Chinese medical community, by compiling descriptions regarding the acupoint actions from the contemporary TCM literatures in China for the selected 91 important acupoints on upper and lower limbs, and a list of standard therapeutic actions (proposed acupoint actions) for the selected points was obtained. Ideally, the therapeutic actions of acupoints should be determined comprehensively on the basis of the knowledge given in “TCM documents” and the evidence from “scientific studies”, in addition to the “expert consensus”. There still remain several issues to overcome, and further studies are required to explore a feasible approach.

**Key words** : Therapeutic Action of Acupoint, Characteristic of Acupoint, Japanese Version

針灸は、中医学の最大の特徴である弁証論治システムの一翼を担う療法として普及している。「健脾・宣肺」などの穴位効能は、各腧穴が備える治療作用の総括であり、弁証論治との親和性も高い。そのため、教育・学習や臨床現場において指導的な役割を果たしている。中国では、1970年代以降、穴位効能の記載のある著作が数多く出版され、教育や臨床における穴位効能の応用も盛んである。しかし、穴位効能の統一見解は日本国内だけでなく中国においてもいまだ存在しない。日本版穴位効能の作成にあたり、混同されがちな「穴位効能」と「穴性」の定義の検討を行い、中国の経穴・針灸専門書籍における普遍的な穴位効能を調査して日本版穴位効能案の1つとして提案し、穴位効能作成の方法案を示して日本版穴位効能作成に資する。

## ■ 穴位効能と穴性の定義

日本で「穴性」と呼ばれることがある「健脾・宣肺」などで表記される穴位の作用・効能の呼称を明確にするため、中国の針灸穴位専門書籍における呼称を調査する。また、「穴位効能」との関係を明らかにするため「穴性」の定義を調査し、

最後に穴位効能の構成要素を考察する。

## ■ 中国針灸・穴位専門書籍における穴位の作用・効能の呼称

### ①目的

「健脾・宣肺」などで表記される穴位の作用・効能の呼称を明確にするため、中国専門書籍におけるこれらの呼称を明らかにする。

### ②方法

中国天津中医薬大学図書館の蔵書 62 万冊中、「健脾・宣肺」などで表記される穴位の作用・効能に関する記載がある腧穴専門書籍および針灸専門書籍 37 部<sup>1)~37)</sup> (1978～2010 年出版) における、穴位の作用・効能の呼称を調査する。

### ③結果

「健脾・宣肺」などの呼称として 19 部で「功能 (効能)」, 8 部で「功效 (効果)」, 4 部で「功用 (効用)」, 3 部で「穴性 (穴性)」, 2 部で「作用 (作用)」, 1 部で「穴义 (穴義)」などの表記が用いられていた (表 1)。

### ④考察

中国専門書籍における穴位の作用・効能の呼称には「功能 (効能)」と表現するものが最も多く、次に多かった「功效 (効果)」「功用 (効用)」も中国語本来のニュアンスは「功能 (効能)」に近い。これらをあわせると 31 部 (83.8%) で「効能」が採用されていることになり、「効能」が大多数を占める呼称と言える。このように中国では、採用が 3 部にとどまっていた「穴性 (穴性)」ではなく、「効能」という表現が一般的であるため、日本でも「健脾・宣肺」などの表記を「穴位の効能」や「穴位効能」と呼称することを提唱したい。また、本稿では「健脾・宣肺」などの表記を「穴位効能」と呼称する。

## ■ 「穴性」の定義

### ①目的

「穴位効能」との関係性を明確にするため、「穴性」の定義を明らかにする。

### ②方法

『中医大辞典 (第 2 版)』(人民衛生出版社)・『新編簡明中医辞典』(人民衛生出版社)・『中医薬常用名詞述語医辞典』(中国中医薬出版社)・『針灸推拿学辞典』(人民衛生出版社)の 4 辞典から「穴性」の項目を検索し、定義を調査する。

### ③結果

『針灸推拿学辞典』に「穴性とは穴位が備える性能を指す。薬性の意義に同じ。……目下、針灸界における穴性への認識は完全には一致しておらず、今後腧穴研究の進歩に伴い徐々に合理化されると思われる。(指穴位所具有の性能。意义与药性相同。……目前, 针灸界对穴性的认识尚不完全一致, 随着腧穴研究的深化, 今后将逐步趋向合理。)」と記載があった。

『中医大辞典 (第 2 版)』『新編簡明中医辞典』『中医薬常用名詞述語医辞典』の各辞典には穴性の記載はなかった。

### ④考察

検索を行った辞典のうち 3 部には「穴性」の項目が存在せず、唯一記載のあった『針灸推拿学辞典』の内容からも「穴性」の定義がまだ明確に定められていないことがわかる。また、『針灸推拿学辞典』の記載から、穴性とは穴位性能のこ

表1 中国専門書籍における「健脾・宣肺」など表記の呼称

中国語表記	日本語訳	数
功能	効能	19
功效	効果	8
功用	効用	4
穴性	穴性	3
作用	作用	2
穴义	穴義	1
		37

とであり、穴位が備える治療効果と関係のある性質や特性を指すと考えられる。また、「穴性」は「薬性の意義に同じ」であると記されている。「薬性」とは中薬の備える四気五味・昇降浮沈・帰経・有毒無毒など治療効果と関係のある性質や特性のことであり、「健脾・宣肺」などの中薬効能は、この「薬性」を総括することで形成された表記である。穴位が備える性質や特性である「穴性」が「薬性」の意義に同じであると言うならば、「穴性」を総括することで「穴位効能」を形成することができると考えられる（図1）。

## ■ 穴位効能の構成要素に関する考察

以上の「中国針灸・穴位専門書籍における穴位の作用・効能の呼称」と『「穴性」の定義』の内容をまとめると、「穴性」は「健脾・宣肺」などの表記を指すのではなく、「穴位が備える治療効果と関係のある性質や特性」を指し、他の関連要素とともに「穴位効能」を形成する1要素であると考えられる。

穴位効能を決定づける主な要素には、「穴性」のほか「人体の機能状態」「器具や手技」があると考えられる。

### ①穴性

穴性とは、穴位が備える治療効果と関係のある性質や特性を指し、「取穴部位」「経脈への帰属」「臓腑との属絡」などの内容を含み、これらの性質から生じる効果は3つに帰納することができると考えられる。1つめは、取穴部位や穴位周囲への作用である「近位作用」。眼部周囲に取穴する睛明・承泣・四白・瞳子髎などの穴位は、いずれも眼病に対する治療作用を備えているのがその例である。2つめは、帰属する経脈の循行する遠隔部への作用である「遠位作用」。いわゆる「経絡所通、主治所及」の体現であり、合谷が上肢の病症だけでなく頸部や顔面部の病症に対し治療作用を備えているのがその例である。3つめは、帰属する経脈の交差や交会・臓腑との属絡など複雑な関係により生じる「特殊作用」。百会の厥症に対する治療作用・瘧門の失語に対する治療作用・至陰の胎位矯正作用など各穴位にさまざまな作用が存在する。また、「近位作用」と「遠位作用」を穴性の共通性、「特殊作用」を穴性の個性と考える研究者もいる<sup>38)~40)</sup>。

### ②人体の機能状態

中薬と穴位には治療効果の発現機序に大きな違いがあり、中薬は薬性の四気五



図1 薬性・穴性・効能の関係

味・昇降浮沈などの性質の偏りである「偏性」により疾病の陰陽偏盛を糾正する「以偏糾偏」を機序としている<sup>38)</sup>。例えば、寒涼性の病証には温熱性の薬物を用い、温熱性の病証には寒涼性の薬物を用い、虚証患者には補虚薬を用い、実証患者には瀉実薬を用いて治療する。この「偏性」は一方向性の特性であり、中薬を投与する患者の病態に関係なく、また健康人であっても同様の作用を発現する。これに対し穴位は、針や灸などによる刺激を受容して経絡を活性化させ、気血を運行し人体の陰陽を調節することを機序としている。この穴位への刺激による陰陽調節は、人体の機能状態により異なる良性の効果を発現する。例えば、天枢への刺針は泄瀉時には止瀉の、便秘時には通便の効果を発揮し、復溜への刺針は有汗時には止汗の、無汗時には発汗の効果を発揮する。穴位には双方向性の特性があり、この作用は「良性双方向性調整作用」と呼ばれている。

穴位には、この「良性双方向性調整作用」があるため、同一穴位を刺激した場合でも病理状態の違いにより異なる調整作用が働く。虚証患者では穴位を刺激することにより扶正補虚の作用が働き、実熱・邪閉の患者では清熱啓閉・祛邪瀉実として作用する。また、胃腸機能が亢進し痙攣を生じている患者には解痙止痛として、胃腸機能が抑制され蠕動が緩慢で腹脹・納呆を生じている患者には消化機能を高め消除腹脹として作用する。ただし、これらの調整作用は各穴位の穴性による作用の範囲内で行われると考えられる。

### ③器具や手技

器具や手技は、補瀉法に関する要素である。同一穴位を刺激した場合でも、補瀉法の違いにより異なる治療作用が現れたり、治療効果の程度に変化が生じる<sup>41)</sup>。臨床では、患者の病状や穴位の穴性に応じ適当な器具や手技を用いることで、その作用を強化し、より大きな治療効果を収めることができると考えられる。

患者の穴位に刺激を与えると、穴性にもとづく数多くの作用のなかから人体の機能状態に応じ陰陽調節に必要な方向性をもった作用が働き、器具や手技などを応用した補瀉法によりその作用が発現・強化される。このようにして発現した作用が穴位効能であると考えられる(図2)。

## ■ 穴位効能案

中国の医学界で認知されている普遍的な穴位の効能を調査するため、穴位効能表記のある中国現代著作を対象に穴位効能表記の集計を行い、各穴位の常用効能を明らかにし、これを日本版穴位効能の効能案の1つとして提案する。

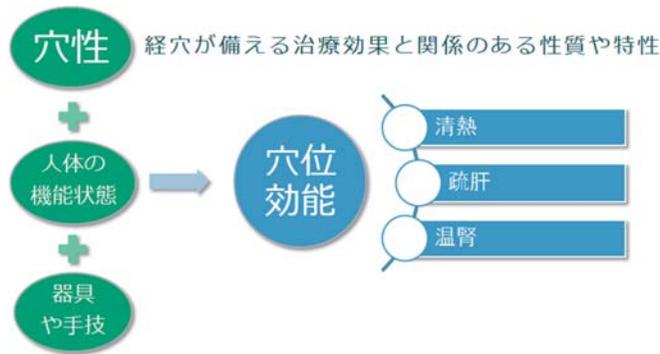


図2 穴位効能の構成要素

## ■ 研究対象と検索範囲

### ①研究対象

上下肢の重要穴である十二経脈の五腧穴（五行穴）・原穴・郄穴・絡穴，および予備調査の結果，臨床応用が多いと推測される三陰交を加えた91穴。

〈予備調査〉

「中国知網」にて1979～2012年に発表された論文から，上下肢穴位の単穴使用臨床研究論文数を調査した結果，三陰交の論文数が足三里（1358篇）・内関（774篇）・合谷（446篇）・湧泉（391篇）に次ぎ287篇で5番目に多かったため，重要穴と判断した（図3）。

### ②検索範囲

中国天津中医薬大学図書館の蔵書62万冊中，穴位の効能記載がある腧穴専門書籍および針灸専門書籍37部<sup>1)～37)</sup>（1978～2010年出版）。

## ■ 方法

### ①入力方法

データベースを構築し，37部の各穴位効能表記を入力する。効能表記部分は原文のとおり入力する。

### ②集計方法

#### ②-1 各穴位の効能表記集計

各穴位効能表記を入力したデータベースより，各穴位すべての効能表記の記載を抜き出し，さらにその効能表記を最小単位に分解する（例：止咳平喘→止咳，平喘）。最後に，分解した効能表記の出現回数を集計する。

#### ②-2 各穴位の同義効能表記の統合

②-1で得られたデータのなかで同義の効能表記を統合し，その出現回数を集計する。以下3点の規則にもとづき各穴位の同義効能表記を統合する。

1) 出現頻度の最も多いものを統合後の効能表記とする。

例：鎮痛3，止疼1，止痛5 → 止痛9（止痛，鎮痛，止疼：5，3，1）

2) 同義の効能表記のなかで，可能な限り2文字の表記を，2文字の表記がない場合4文字の表記を，4文字の表記がない場合はその他の表記を選び，統合後の効能表記とする。

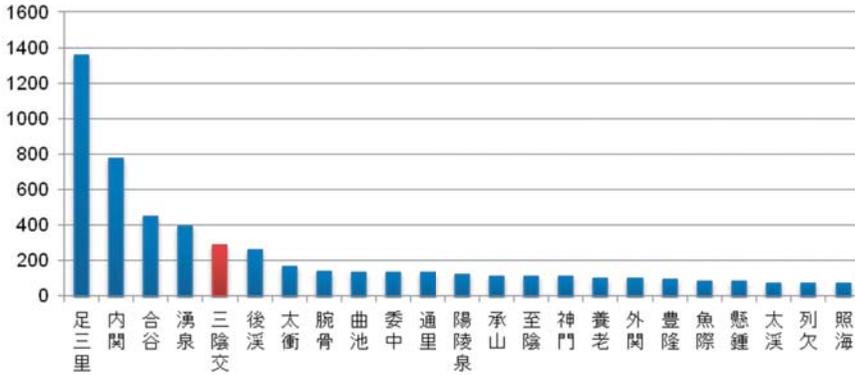


図3 上下肢穴位の単穴使用臨床研究論文数 (篇)

例：止痛 1，止疼痛 1 → 止痛 2 (止痛，止疼痛：1，1)

宣通肺気 4，宣肺 2 → 宣肺 6 (宣通肺気，宣肺：4，2)

- 3) 2種以上の効能が含まれた効能表記のうち，当該穴位の効能表記にそれらすべての効能表記が存在する場合，それぞれの効能表記に出現回数を加える。

例：止咳喘 5    止咳 11 (止咳，止咳喘：6，5)

止咳 6    → 平喘 8 (止咳喘，平喘：5，3)

平喘 3

### ③全穴位効能データベースの構築

各穴位のデータを集計し，穴位効能データベースを再構築する。

### ④各穴位の常用効能 (穴性案)

各穴位の代表的な効能を確定するため，穴位効能データベースの各穴位効能表記を出現回数の多い順に並び換え，さらにすべての穴位に共通する効能である「疏経」「活絡」などを除外し，各穴位上位 5 項の常用効能を導き出す。複数の効能表記の出現回数が同一のため 6 項以上になった場合は，これらを併記する。

## ■ 結果

対象 91 穴それぞれ上位 5 項程度の常用効能 (穴性効能案) を得た (表 2)。

## ■ 考察

上下肢の重要穴である 91 穴に関し，中国の医学界で認知されている普遍的な常用効能を明らかにした。この結果はいくつかの特徴を示している。①多くの経穴はいずれも「清熱」を備えており，特に陽経経穴および陰経を含めた井穴・榮穴・合穴では「清熱」が上位にあたる。②陰経経穴はそれぞれが属す五臓に対する効能を備えている (手太陰肺経の「宣肺」・足太陰脾経の「健脾」・手少陰心経の「安神」・足少陰腎経の「益腎」・手厥陰心包経の「安神」・足厥陰肝経の「疏肝」など)。③陽経経穴は「清熱」のほか「祛風」や五官に対する効能を多く備えている。④すべての井穴は「開竅」 (または同様の効能) を備えている。⑤陰経郄穴は血症に対する効能を備えている。⑥足陽明胃経の一部経穴は「健脾 (和胃)」など脾 (胃) に対する効能を備えている。以上の特徴は，テキストなどの特定穴

表2 上下肢重要穴の穴位効能案

	コード	経穴名	効能		コード	経穴名	効能
1	LU5	尺沢	降逆・清肺・和胃・清熱・宣肺	24	SP1	隠白	寧神・健脾・統血・開竅・調經・益氣
2	LU6	孔最	清熱・止血・潤肺・利咽・解表	25	SP2	大都	健脾・和胃・清熱・寧神・利湿
3	LU7	列欠	宣肺・疏風・解表・利咽・理氣	26	SP3	太白	健脾・和胃・化湿・理氣・清熱
4	LU8	経渠	宣肺・理氣・平喘・降逆・疏風・解表	27	SP4	公孫	健脾・和胃・化湿・理氣・調理衝任
5	LU9	太淵	止咳・宣肺・通脈・化痰・清肺	28	SP5	商丘	化湿・健脾・通調腸胃・肅降肺氣・舒筋
6	LU10	魚際	利咽・清熱・宣肺・清肺・解表	29	SP6	三陰交	健脾・調補肝腎・和胃・調經・利湿
7	LU11	少商	開竅・利咽・清熱・清肺・救逆	30	SP8	地機	健脾・理血・利湿・調經・固精
8	LI1	商陽	開竅・清熱・利咽・消腫・止痛	31	SP9	陰陵泉	利湿・健脾・通利三焦・利水・益腎
9	LI2	二間	清熱・消腫・止痛・利咽・疏風	32	HT3	少海	安神・調氣・清心・活血・化痰
10	LI3	三間	清熱・散風・行氣・利節・清陽明熱邪	33	HT4	靈道	寧心・理氣・活血・鎮痛・舒筋
11	LI4	合谷	疏風・清熱・開竅・解表・止痛	34	HT5	通里	安神・清心・利舌・和營・利咽
12	LI5	陽溪	清熱・散風・疏筋・利節・安神	35	HT6	陰郄	安神・固表・滋陰・清心・養血
13	LI6	偏歷	清熱・利水・通調水道・祛風・宣肺	36	HT7	神門	安神・清心・理氣・活血・和營
14	LI7	温溜	清熱・調理腸胃・解毒・清瀉陽明・安神	37	HT8	少府	清心・安神・瀉火・行氣・活血
15	LI11	曲池	清熱・祛風・解表・利節・利湿	38	HT9	少衝	開竅・泄熱・安神・清心・熄風
16	ST34	梁丘	和胃・止痛・理氣・消腫・調氣血	39	SI1	少沢	清熱・通乳・開竅・利咽・清心
17	ST36	足三里	扶正・健脾・和胃・調和氣血・化滯	40	SI2	前谷	清熱・明目・聰耳・疏風・理氣
18	ST40	豐隆	化痰・安神・和胃・利湿・健脾	41	SI3	後溪	清熱・安神・醒神・舒筋・散風
19	ST41	解溪	清胃・降逆・寧神・健脾・舒筋	42	SI4	腕骨	散風・清熱・增液・舒筋・清利湿熱
20	ST42	衝陽	寧神・和胃・健脾・化湿・清胃	43	SI5	陽谷	清熱・鎮驚・清心・舒筋・明目・聰耳
21	ST43	陷谷	行水・健脾・散風・清熱・和胃	44	SI6	養老	明目・舒筋・清熱・散風・增液
22	ST44	内庭	止痛・和胃・瀉火・清胃・安神・理氣	45	SI7	支正	寧神・清熱・解表・疏風・清心
23	ST45	厲兌	蘇厥・安神・清熱・和胃・清胃	46	SI8	小海	安神・清熱・祛風・調氣血・舒筋

	コード	経穴名	効能
47	BL40	委中	清熱・舒筋・涼血・理血・開竅・散風
48	BL58	飛揚	清熱・散風・解表・舒筋・寧心
49	BL60	崑崙	舒筋・清頭・明目・強腰・祛風
50	BL63	金門	安神・舒筋・開竅・清腦・熄風
51	BL64	京骨	安神・清熱・明目・散風・清頭
52	BL65	束骨	清熱・散風・寧心・清利頭目・舒筋
53	BL66	足通谷	安神・清熱・散風・清頭・明目
54	BL67	至陰	清頭・明目・軫胎・疏風・清熱
55	KI1	湧泉	開竅・清熱・寧神・滋腎・熄風
56	KI2	然谷	補腎・滋陰・清熱・利湿・滋腎
57	KI3	太溪	益腎・滋陰・調理衝任・滋腎・止嗽
58	KI4	大鍾	益腎・安神・平喘・清熱・通調二便
59	KI5	水泉	調經・活血・清熱・益腎・疏利下焦・調理衝任
60	KI7	復溜	滋陰・補腎・利水・清熱・利湿
61	KI10	陰谷	益腎・利湿・清熱・止痛・興陽
62	PC3	曲沢	清熱・降逆・除煩・寧心・活血
63	PC4	郄門	寧心・涼血・止血・清營・理氣
64	PC5	間使	安神・化痰・寬胸・和胃・開竅
65	PC6	内関	安神・和胃・理氣・止痛・寬胸・降逆
66	PC7	大陵	安神・和胃・寬胸・清心・理氣・清熱
67	PC8	勞宮	清心・安神・開竅・瀉熱・涼血
68	PC9	中衝	開竅・瀉熱・清心・寧心・回陽
69	TE1	関衝	清熱・開竅・疏風・解表・宣達三焦・清三焦熱

	コード	経穴名	効能
70	TE2	液門	清熱・聰耳・明目・清頭・散邪
71	TE3	中渚	清熱・聰耳・開竅・明目・散風
72	TE4	陽池	清熱・舒筋・散風・疏調三焦・增液
73	TE5	外関	清熱・解表・散風・理氣・聰耳
74	TE6	支溝	通腑・清熱・清利三焦・降逆・通便
75	TE7	会宗	清熱・聰耳・清三焦火・解痙・安神
76	TE10	天井	清熱・化痰・寧神・理氣・疏風
77	GB34	陽陵泉	舒筋・疏肝・利胆・利湿・泄熱
78	GB36	外丘	疏肝・理氣・解毒・利胆・清熱
79	GB37	光明	明目・清肝・祛風・利湿・疏肝
80	GB38	陽輔	清熱・疏風・疏肝・理氣・清肝
81	GB40	丘墟	疏肝・利胆・利節・止痛・泄熱
82	GB41	足臨泣	明目・疏肝・清頭・熄風・瀉火
83	GB43	俠溪	清熱・消腫・止痛・熄風・明目・清頭・疏利胸脇
84	GB44	足竅陰	清熱・開竅・清胆・明目・熄風
85	LR1	大敦	醒神・理氣・調經・疏肝・解痙
86	LR2	行間	熄風・安神・清肝・清熱・疏肝
87	LR3	太衝	平肝・熄風・理氣・疏肝・鎮驚・泄熱
88	LR4	中封	疏肝・理氣・健脾・清肝・胆熱・利湿
89	LR5	蠡溝	疏肝・理氣・調經・清熱・利湿
90	LR6	中都	理氣・疏肝・止痛・調經・益肝
91	LR8	曲泉	利湿・清熱・疏肝・理氣・舒筋

や各経脈経穴の主治内容と一致しており、臨床家や研究者から比較的理解を得やすい結果となったと思われる。また、穴位の特殊作用とも言える至陰の「転胎」や溝の「通腑」などの効能は興味深い。この結果を日本版穴位効能作成のたたき台として提案したい。

## ■ 穴性標準作成の方法案

穴位効能標準を作成するならば、従来のように一部の権威たちが経験や独自の理論を根拠に話し合っただけでは不十分ではないかと考える。穴位効能の標準作成には3つの要素が欠かせないと考える。1つは「中医医籍」。中薬の主治や効能が歴代医家の臨床実践の総括であるように、穴位効能も歴代針灸医家の実践の結晶である大量の主治症を基礎とすべきである。また、1つは「研究データ」。国内外針灸臨床試験のデータを、EBMの考えにもとづいた手法を用い分析・評価・統合し、根拠とすべきである。そして、もう1つは「専門家のコンセンサス」であり、これも欠かすことはできない。「中医医籍」を基礎、「研究データ」を根拠に、「専門家のコンセンサス」を参考とし、総合的に穴位効能を考えるのが理想的だろう。この原則に従いシステムティックレビューの手法を応用し、エビデンスにもとづく穴位効能を形成する方法を確立して、足三里・支溝の2穴を例にエビデンスを有する効能表記を形成した研究があるが、現時点では単穴使用の臨床報告数が少ないこと、針灸領域における研究報告の質が十分に高くないことなど問題があるとしている<sup>42)43)</sup>。また、この種の手法を用いて400穴近くある常用穴すべての研究を実施するには膨大な労力が必要であるため、「中医医籍を基礎とし、研究データを根拠に、専門家のコンセンサスを参考とし、総合的に穴位効能を形成する」という原則を加味しながら、実現可能な方法を模索する必要がある。

## 文献

- 1) 鄭魁山：針灸集錦。甘肅人民出版社，蘭州，1978
- 2) 石学敏：實用針灸学。天津科学技術出版社，天津，1981
- 3) 鄭魁山：子午流注与靈龜八法。甘肅人民出版社，蘭州，1983
- 4) 天津中医学院：腧穴学 針灸試用教材。天津，1983
- 5) 劉潔声：太乙神針灸臨証録。陝西科学技術出版社，西安，1984
- 6) 李世珍：常用腧穴臨床發揮。人民衛生出版社，北京，1985
- 7) 徐笨人・葛書翰：臨床針灸学。遼寧科学技術出版社，瀋陽，1986
- 8) 謝文志：針灸探微。科学技術文献出版社重慶分社，重慶，1987
- 9) 黎文献・薛長利・黎建海：針灸簡易取穴法。科学普及出版社広州分社，広州，1988
- 10) 章逢潤・耿俊英：中国灸療学。人民衛生出版社，北京，1989
- 11) 楊甲三：針灸腧穴学。上海科学技術出版社，上海，1989
- 12) 張耀忠・傅志強：氣功按摩穴位実用手冊。学苑出版社，北京，1990
- 13) 趙昕・劉炜宏：腧穴臨証指要 国家標準《經穴部位》宣貫。中国標準出版社，北京，1994
- 14) 石学敏：石学敏針灸学。天津科学技術出版社，天津，1996

- 15) 李平華：針灸腧穴療法。中国古籍出版社，北京，1996
- 16) 靳士英：経絡穴位与針灸概要。人民衛生出版社，北京，1996
- 17) 趙吉平・王燕平：針灸特定穴位 理論与臨床。科学技術文献出版社，北京，1998
- 18) 楊兆民・鞠伝軍：實用針灸選穴手冊修訂版。金盾出版社，北京，1998
- 19) 王玉興：新編實用腧穴学。中国医藥科技出版社，北京，1999
- 20) 王云凱：臨床常用百穴精解。天津科学技術出版社，天津，2000
- 21) 吳緒平・馬俊・童利民：腧穴学教学重点与模擬題解。中国医藥科技出版社，北京，2000
- 22) 孫国傑：針灸学。人民衛生出版社，北京，2000
- 23) 章逢潤：針灸弁証治療学。中国医藥科技出版社，北京，2000
- 24) 王麟鵬・裴音・宣雅波：中医針灸臨証。華南理工大学出版社，広州，2002
- 25) 郭長青：針灸特定穴臨床实用集萃。人民衛生出版社，北京，2002
- 26) 何玲・陳思平・王立君：臨床腧穴学。人民軍医出版社，北京，2003
- 27) 臧郁文：中国針灸臨床治療学。青島出版社，青島，2003
- 28) 張学勛：實用針灸取穴手冊。人民衛生出版社，北京，2003
- 29) 齊強：實用六解穴位辞典。学苑出版社，北京，2004
- 30) 王富春：腧穴類編。上海科学技術出版社，上海，2004
- 31) 杜元灝：針灸处方学。江蘇科学技術出版社，南京，2004
- 32) 李道生：針灸三十講。人民衛生出版社，北京，2005
- 33) 張吉：針灸学。人民衛生出版社，北京，2006
- 34) 王启才：特定穴臨床应用。中国中医藥出版社，北京，2008
- 35) 張智龍：針灸臨床穴性類編精解。人民衛生出版社，北京，2009
- 36) 石学敏：石学敏实用針灸学。中国中医藥出版社，北京，2009
- 37) 範其雲：中国伝統实用針灸学。山西出版集团・山西科学技術出版社，太原，2010
- 38) 凌宗元：腧穴穴性理論探論。中国針灸 25 (2)：131-132, 2005
- 39) 許英章：針灸穴位的性能与分類。福建中医藥 (5)：45-46, 1982
- 40) 張慰民：淺談穴性。上海針灸雜誌 (3)：45-46, 1984
- 41) 王啓才：針灸治療学。中国中医藥出版社，北京，2007, 41
- 42) 渡邊大祐：エビデンスにもとづく足三里・支溝穴の効能〈前篇〉。中医臨床 35 (4)：130-135, 2014
- 43) 渡邊大祐：エビデンスにもとづく足三里・支溝穴の効能〈後篇〉。中医臨床 36 (1)：134-139, 2015